

地震発生からの10日間 能登半島地震 2024.1.1~1.10



湖南広域消防局の活動状況

令和6年1月1日に石川県能登地方で発生しました地震により、お亡くなりになられました方々のご冥福を心よりお祈り申しあげますとともに、ご家族や被災された皆様方に、心よりお悔やみとお見舞いを申しあげます。

1日 地震発生 第一陣出動

- 16:06 石川県珠洲市 震度5強
- 16:10 石川県羽咋郡志賀町 震度7
- 18:38 消防庁長官から滋賀県大隊へ出動指示
- 19:00 湖南広域消防局からの派遣隊8隊25名は、滋賀県大隊の集結場所である福井県南条SAに向けて出動
- 21:00 滋賀県内7消防本部からの派遣隊、全38隊128名が福井県南条SAに集結
- 22:40 滋賀県大隊は石川県消防学校に向けて移動を開始



第一次派遣隊出動式



石川県に向けて出動



福井県南条SAに集結



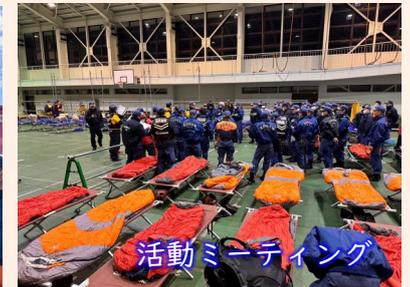
石川県消防学校へ移動

2日 石川県内に到着 ↓ 海路で珠洲市へ

- 1:30 活動ミーティング
陸路走行困難のため一時待機
- 1:35 滋賀県大隊は京都市消防局指揮支援隊の指揮下により珠洲市での活動が決定
- 7:10 先遣隊の25名が金沢港から**海路**にて被災地に入ることが決定（先遣隊は、湖南消防、大津消防、東近江消防、湖北消防の隊員）
- 12:06 先遣隊が金沢港へ到着
- 13:09 自衛隊の護衛艦「あさぎり」に乗船し出航
- 18:18 珠洲市沖に到着
津波による漂流物多数のため港へ着岸できず



石川県消防学校集結



活動ミーティング



護衛艦「あさぎり」乗船

3日 陸路で珠洲市へ↓活動開始↓倒壊した家屋の中に2日以上閉じ込められていた男性を無事に救出

- 7:45 石川県消防学校で活動ミーティング、小型車両に乗り換え、滋賀県大隊は珠洲市へ向かうことが決定
- 8:10 先遣隊25名が陸上自衛隊のヘリコプターにて珠洲市内へ上陸
- 8:30 奥能登広域消防本部の消防車両で珠洲消防署に向けて出発
- 8:37 珠洲消防署に到着
- 9:00 滋賀県大隊本隊が陸路にて珠洲市に向けて出発
- 10:14 先遣隊が珠洲市鵜飼地区で救助活動開始
- 10:56 本隊移動中、緊急地震速報（震度5強）により一時停車
- 14:20 本隊が珠洲消防署に到着、活動開始（救助活動や救急搬送）
- 16:10 先遣隊が珠洲消防署に帰署、本隊と合流
- 19:43 滋賀県大隊活動再開
- 21:00 京都府大隊救助隊2隊到着
合同で検索救助活動を実施
- 23:00 滋賀県大隊、京都府隊活動終了
救出5名（うち79歳男性1名は意識あり）



地震の被害や余震により、珠洲市への移動は困難を極めた



珠洲市鵜飼地区の被災状況



先遣隊の鵜飼地区における活動状況



倒壊した家屋の中に2日以上閉じ込められていた男性を無事に救出

救出されたのは、石川県珠洲市宝立町春日野地区の木造2階建て民家に1人で暮らしていた 江表 大司郎さん（79）。石川県能登地方では1日午後4時過ぎに震度5強の揺れに見舞われた。同県七尾市に住む長男の洋司さん（50）は、父親の様子が気になって電話をかけた。

「大丈夫。無事だ。今の地震で家がゆがんだから、ちょっと見てくる」。大司郎さんは洋司さんと話しながら、母屋に入った。

その瞬間、最大震度7の揺れが再び同地方を襲った。洋司さん自身も揺れに見舞われる状態だったが、父親との電話を切っただけでいいと思った。

ガサガサガサ…。すさまじい轟音（ごうおん）が耳に飛び込んできたと思ったら、通話は切れた。洋司さんの姉がすぐに家の様子を見に行くと、母屋はべしゃんこにつぶれていた。声をかけても反応はなかった。

3日午後3時過ぎ、交通規制が解除されて洋司さんはようやく家にたどり着いた。ダメかもしれないと思いながら「おーい」「おーい」と何度も声をかけると、「うー」「うー」と父親のかすかな声が聞こえた。

慌てて消防を呼び、救助活動が始まった。地元消防に京都市消防局も加わり、がれきを人力で取り除き、通路を確保するなど、余震が続く中での約2時間の作業の結果、大司郎さんは無事に救助。救助段階では目立ったけがもなかった。洋司さんは「助かってくれただけでありがたい。ほんとうにうれしい」と涙をこらえて絞り出すように語った。

【産経新聞】

10日

湖南広域消防局は緊急消防援助隊として、発災日の1日から隊員を派遣し、交代しながら10日間、延べ25隊75名の隊員が被災地で救助活動等を行いました。